

秋田県立大学大学院 生物資源科学研究科 学位論文審査基準

令和6年4月24日

生物資源科学研究科教授会決定

令和6年4月1日 施行

1 前期課程

学位規程第5条に定める学位論文審査委員会（以下「委員会」という。）による修士論文の査読と論文発表会を経て、以下の項目について基準を満たしているかを修士論文審査票（審査様式1号）により審査し、総合評価を100点満点として60点以上かつ「研究者倫理・技術者倫理」の評価が可の場合を合格とする。

論文審査項目

① 専門性

- ・研究の背景と目的を理解して、課題を明確にしている。
- ・問題発見と解決法の提案に必要な実験や調査が適切に行われている。
- ・実験や調査によって得られたデータの解析と考察が適切になされている。

② 論旨の適切性

- ・修士論文が、研究背景と研究目的を踏まえ、実験や調査によって得られたデータの解析から考察に至るまで一貫した論考がなされている。

③ 発表・質疑応答

- ・論文発表会での発表と質疑応答が適切になされている。

④ 研究者倫理・技術者倫理

- ・研究計画の立案及び遂行、研究資料の収集及び管理、学位論文の作成及び発表に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の研究活動の不正行為防止に関する規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。

2 後期課程

委員会による博士論文の査読と論文発表会を経て、以下の項目について基準を満たしているかを博士論文審査票（審査様式2号）により審査し、総合評価を100点満点として60点以上かつ「研究者倫理・技術者倫理」の評価が可の場合を合格とする。

論文審査項目

① 専門性

生物資源科学分野の博士として、広範な専門知識と高度な問題発見・解決能力を身に付けている。また生物資源科学分野の未解決な課題に対し、先端的なアプロー

チ方法や解決方法を開拓して、独創的な研究を発展させていく能力を身に付けている。

② 研究テーマの適切性

設定したテーマが生物資源科学研究科の博士学位に対して適切である。

③ 研究方法の適切性

設定テーマを研究する際に、明確な研究目的を持ち、適切な調査・実験・解析方法を用いている。また得られた結果に基づいて博士学位にふさわしい分析と考察がなされている。

④ 独創性

博士論文の成果が対象とする研究領域において、優れた研究業績であり、かつ独創性を有している。

⑤ 論旨の適切性

博士論文が、研究背景と研究目的をふまえ、得られた研究結果から考察に至るまで一貫した論考がなされている。かつ生物資源科学研究領域で、博士学位の水準に達している。

⑥ 発表・質疑応答

論文発表会での発表と質疑応答が適切になされている。

⑦ 研究者倫理・技術者倫理

研究計画の立案及び遂行、研究資料の収集及び管理、学位論文の作成及び発表に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の研究活動の不正行為防止に関する規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。